

一般社団法人 安来青年会議所



ふれあい

題字 理事長 浜田 学

発行所
一般社団法人 安来青年会議所
理事長 浜田 学
安来市飯島町1240-3
☎ 3038
編集 会員資質向上委員会
編集長 木下 淳

『一年間を振り返って』



一般社団法人 安来青年会議所
第四十八代 理事長 浜田 学

平素より一般社団法人安来青年会議所の運動にご理解、ご協力を賜りますこと誠にありがとうございます。皆様のご協力を持ちまして二〇一四年度四十八代目理事長として間もなく任期を終えさせていただきます。振り返りますと本当に凝縮された一年でした。

【若いメンバーと】

当会では今年で経験豊富と呼ばれるメンバーが卒業してしまいません。しかし経験豊富でなくとも青年会議所運動は出来ます。そこで必要なことは様々な事業に対し【奉仕・友情・修練】という青年会議所の三信条を胸におき真摯に関わることであると考えます。今年には経験の浅いメンバーを委員長として任命させて頂きました。事業を企画し実行するには本当に相応な準備が必要です。完成度100の事業を行おうと思えば120、150いや更にもっと準備を行わなければなりません。事業開催までに様々な指摘や変更、修正がなされ実際に準備周到のつもりで事業を開催します。しかし後に残るものは多くの反省が目立っていたと思います。この反省から多くのことを学び現在よ

りも更に素晴らしい事業開催に向けて邁進して行きます。

私は今年一年『一歩前に』とスロークーガンを掲げさせて頂きました。「どうすれば出来るのか」を考え事業を展開して参りました。今年経験した反省点を活かして次年度以降、更に良い事業を開催して行く所存です。

【事業を通して】

青少年教育向上委員会では主に保護者様向けの事業を展開しました。開催した事業からは礼儀正しくする、挨拶をする、感謝の心、思いやり、相手(子ども)を認める等あたりまえのことがやはり一番大事であるということに改めて感じさせて頂きました。そして青少年教育について改めて実感したことがあります。それは親として子ど

もが生まれた瞬間に責任が伴うだけであり、指導する親(保護者)としては一年生であり子どもと共に成長して行けば良いと様々な事業を経て実感しました。「親として、指導者として悩みすぎることが余計に違う方向へ行くのではないのか」と考えるようにもなりました。が答えの無い道です。次年度以降も更に考えて行こうと思えます。

地域社会向上委員会では「まちづくり」を考えるときにどんな発想が必要なのかということを中心例に例事業を開催しました。一例ですが少子高齢化で嘆いている日本において子どもが増えないことだけを問題視し、それにより地域の人口は都市圏へと流出し私たちの地域は疲弊していくと嘆いています。しかし観光産業等で活性化は出来ると思えます。全国平均での定住者が行楽や嗜好品にける金額はおよそ121万円。外国人観光客は1回で18万円使用し、邦人国内旅行では一泊二日で5.4万円というデータがあります。外国人観光客を7人呼べば定住者1人分、邦人観光客を23人呼べば定住者1人分になります。私たちの安来市には素晴らしい観光名所、行事、祭事が多く存在しています。視点を改めて考えてみれば多くの可能性を秘めていると実感しました。

会員資質向上委員会では会員の資質を向上すべく事業を開催しました。大きな事業として株式会社井脇寛氏を迎えての講演会を実施致しました。講演の中で「会社を経営するのもまちづくりも一緒である」というお言葉に本業をきちんと行えば自ずとまちは良くなり、まちが廃れるということは本業が

きちんと行えていないということであると理解しました。本業を更に良くすることがまちづくりにも繋がっていると自負し次年度も更に修練を積み上げなければと実感しています。

【終わりに】

一年を通して様々な事業に参加させて頂きました。日本各地で行われた事業はどれも素晴らしい多くの学びを得させて頂きました。初対面のメンバーも多かったのですが各地青年会議所同志での繋がりがあったからこそたくさんの方のメンバーと話をさせて頂きました。この繋がりがこそ先輩方が築き上げてこられた財産であると今は実感しています。

このふれあいの会員募集にも「多くの仲間との出会いがあります」と記載されています。本当に多くの仲間と出会えました。しかし意見が合うから仲間ではありません。話をすればするほど人は自分と違うと認識するだけです。仲間とは同じ目的のため同じ志で行動することが仲間ではないかと改めて思いました。私はそのような仲間が同志と呼ぶに値する存在であると確信します。この関係を大切に次年度も更に多くの同志と共に運動を展開して参る所存ですので今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願致します。

最後に事業にご参加頂きました皆様、ご指導頂きました先輩諸兄、ご支援頂きましたメンバー、そしてご家族の皆様にご心から感謝を申し上げます。一年間ありがとうございました。

中海架橋を考える

地域社会向上委員会

委員長 日野泰介

中海架橋構想は昭和53年に中海周辺の商工会議所・商工会で構成する中ノ海ブロック経済協議会において提起され、島根・鳥取両県に対し陳情がされました。また昭和62年には安来青年会議所の呼びかけにより、安来市島田町・米子市旗ヶ崎間の中海にドラム缶を浮かべ650人が渡るイベントが実施されました。その後、平成6年に島根・鳥取両県で構成する中海架橋建設連絡協議会が設立され、協議が繰り返されてきましたが、国の財政状況の悪化等により同協議会は実質休止状態となつています。そのような背景を経て、平成25年度において安来市と米子市によって架橋建設の必要性を明らかにする調

査が行われ、中海架橋建設へ向けた新たな一歩が踏み出されました。そこで当委員会では4月の例会事業で「中海架橋を考える」と題して、安来市基盤整備部部長の作野氏を講師としてお招きし、市民の方々に中海架橋の必要性を考えていただくことを目的として講演していただきました。

作野氏の講演では歴史を踏まえながら実現に向けて今の現状、調査報告をしていただき、参加した皆様も様々な視点で考えていただくことができました。早期実現は難しいものの多くの市民が周知して期待を高めていくことが必要であり今後に繋がっていくと思えます。

中海架橋実現に向けた要望書

6JC経済文化交流会

会長 遠藤清二

事業効果の検討

テーマ1 救命医療

【検討事項】
島根県の医療連携機関である鳥取大学医学部附属病院の緊急搬送体制に関わる中海架橋の必要性について

【現状の課題】
島根県が策定した保健医療計画

(平成25年4月)では、鳥取大学医学部附属病院は松江圏域の連携医療機関として「脳卒中・急性心筋梗塞・小児医療・緊急医療」など急性期の医療連携を担っている重要な医療拠点です。ところが朝夕の通勤・帰宅時間帯における県境付近の国道9号線が発生する交通渋滞は以前から当該医療機関への緊急搬送を妨げる深刻な問題です。特に重篤な自病を抱える患者や高度

中海架橋実現に向けた要望書

平成26年11月

【趣 旨】

中海・宍道湖・大山圏域の一体的発展と地方分散型社会の推進を図るため、圏域に暮らす若者の視点により中海架橋の有用性について検討し、中海架橋の早期実現を目指して関係自治体へ事業推進を要望することを目的とします。特に「いのち・くらし」など生活者としての視点を大切に、公共事業の一般的な費用便益比率だけではなく、生活に関わる潜在的な事業効果についても検討を重ね、圏域社会の未来を担う責任ある青年団体の声としてまとめました。

【要望事項】

1. 中海架橋実現に向けた中海架橋建設連絡協議会の早期再開をお願いします。
2. 国に対する重点要望施策に中海架橋建設計画を盛り込むようお願いします。

平成26年11月11日 平井鳥取県知事、野田鳥取県議会議長へ提出
平成26年11月20日 溝口島根県知事、岡本島根県議会議長へ提出

な小児医療を必要とする子供を持つ家族にとつて、通勤・帰宅時間帯における県境の渋滞問題はまさに死活問題です。

【期待される効果】

中海架橋の実現により通勤・帰宅時間帯における県境付近の国道9号線の混雑緩和が期待され、搬送時間の短縮に繋がることが期待されます。一刻を争う急性期の医療現場では重篤な患者の救命率の向上と迅速な初期手当による病状の進行軽減が期待されます。また同圏域では高齢化の進展に伴い、救急車による患者搬送件数は増加の一途を辿っています。県境を越えた緊急搬送体制の充実が求められます。

テーマ2 大規模災害

【検討事項】

大規模な原子力災害発生時における圏域住民の早期避難と、南海トラフ巨大地震発生時における被災地区への救助・救援活動に関わる中海架橋の必要性について

【現状の課題】

中国電力島根原子力発電所30km圏内(UPZ)の周辺自治体は、大規模な原子力災害に備え広域避

難計画を策定したところですが、原子力災害が発生した際に、米子市内を避難ルートとする被災住民が可及的速やかに広域避難をするために、米子市内の混雑を緩和するための避難ルートの充実が求められるところです。

また我が国全体の国民生活・経済活動に極めて深刻な影響を及ぼすことが懸念される南海トラフ巨大地震が発生した際に、甚大な被害が想定される被災地区への支援・補給機能の向上を図る必要があります。

【期待される効果】

松江市原子力災害広域避難計画のなかで、UPZ地区別避難先として、美保地区、八束地区、朝酌地区、本庄地区、川津地区は、岡山県内が避難経路として指定されており、その際の避難ルートは江島大橋から米子市内を経由する避難ルートが指定されています。また境港市広域住民避難計画のなかで主要避難路線として、県道47号線(内浜産業道路)から山陰自動車道を経由し、避難先である鳥取県内の各自治体への段階的避難が指定されています。同様に米子市広域住民避難計画のなかでも、UP

Z圏内一部の避難区域住民の主要避難路線は、境港市民と同様のルートを經由する避難経路が指定されています。

これらの広域避難計画を実施するうえで、原子力災害発生時には米子市中心部の道路交通網は混雑を極めることが予測されますが、中海架橋の実現により避難ルートの選択肢が増えることにより、被災住民の迅速かつ円滑な避難実施に資することが期待されます。

また一方で、内閣府・中央防災会議において検討されている南海トラフ巨大地震は、西日本の太平洋沿岸を中心に超広域にわたり、東日本大震災を超える甚大な人的・物的被害が想定されています。本圏域は想定される激甚災害が発生した際に、四国・山陽地区などの被災地に対して、迅速な救助・救援活動を行なう重要な役割を担うことが予想されます。特に空路では航空自衛隊美保基地、機材や物資の受け皿となる港は境港が支援・補給ルートとして重要な機能を担いますが、中海架橋はこれらの救助・支援機能の向上に深く関与することが期待されます。

テーマ3 くらし

【検討事項】

本圏域における一体的な住環境の向上と地方分散型社会の推進に関わる中海架橋の必要性について

【現状の課題】

全国的な人口減少社会のなか、本圏域も例外なく圏域人口が減少し、少子・高齢化に歯止めが効かない現状にあります。また進学・就労を通じて都市部への人材流出が続いているなか、魅力ある圏域づくりをするうえで住環境の更なる向上を図る必要があります。また三

大都市圏への過度な集中を改善し、都市機能や経済基盤を地方分散しリスク管理されたバランスの良い国土形成が求められています。

【期待される効果】

平成16年には江島大橋が架かり、平成25年には松江第五大橋道路が開通し、本圏域を繋ぐ道路交通網の整備が進むなか、圏域東部地区のインフラ整備が待ち望まれるところ。本圏域は、通勤・通学・買い物などぐらしを通じ一体的な生活圏域が形成されていますが、都市部と比べ未整備な高速度道路網などの交通インフラの利便性向上が求められています。中海架橋の実現により、圏域内の時間的距離が縮まることにより本圏域で暮らす住民の住環境が向上するとともに、医療・福祉・教育などの圏域内における施設の共有化が促進されることにより、都市機能の効率化が期待されること。進学・就労・結婚などを通じ、中海・六道湖・大山圏域をひとつの「ふるさと」として一体感の醸成に取り組みることが、魅力ある圏域社会の形成に繋がるものと考えます。

また戦後の高度成長期を経て、自由経済主義のもと進んだ三大都市圏への極端な都市機能の集中化が、一方で自然災害などに対する生活・経済リスクを高める結果となつています。中海架橋の実現により本圏域が日本海沿岸の中核的な都市機能を向上させることにより、地方分散型社会の推進を図り、バランスの取れた国土形成のグランドデザインに深く関与することが期待されます。

テーマ4 観光振興

【検討事項】

一体的な圏域観光ネットワーク

の形成とインバウンド観光の推進に關わる中海架橋の必要性

【現状の課題】

圏域内には豊富な観光資源があり、山陰観光の中心的な役割を担っています。山陰観光の中心となる観光を前提とした旅行商品の開発が少なく、観光周遊性の向上が課題となつています。また圏域内の空と海の国際定期航路を活かし、インバウンド観光の推進を図るうえで、国際ゲートウェイ機能のインフラ整備が求められること。本圏域には「出雲大社」「松江城」「足立美術館」「大山」「水木しげるロード」など優れた観光資源を有し、また「玉造温泉」「皆生温泉」「松江しんじ湖温泉」など飲食・宿泊施設もあり、観光は本圏域の主要産業のひとつです。しかし圏域内の観光地間の距離の問題から一体的な周遊観光商品が少ないのが現状です。中海架橋の実現によりこれらの観光地間の移動時間を短縮させることにより周遊性が向上し、一体的な圏域観光ネットワークの形成に資することが期待されます。

【期待される効果】

また本圏域に來訪する外国人観光客の誘致を促進するために、国際便を就航する米子鬼太郎空港及び国際定期航路やクルーズ客船が寄港する境港と圏域内の観光地を中海架橋でつなぐことにより、利便性が高まりインバウンド観光の推進が期待されます。

テーマ5 産業振興

【検討事項】

圏域内の一体的経済発展を図るため「ヒト・モノ」の円滑な移動の促進と、圏域経済に海外の経済成長を取込むための国際ゲートウェイ機能の向上に關わる中海架橋の必要性について

同圏域の市町村内総生産(総務省「経済センサス(平成21年度)」)は山陰両県の約5割を有しています。圏域経済の連携を強化し一体的な発展を図るために産業集積地相互間の交通ネットワークの更なる充実が求められること。また同圏域の長期的な経済成長戦略として、日本海に面した地理的優位性を活用し、北東アジア地域の経済成長を本圏域の経済成長に取り込むため、空路・海路の国際ゲートウェイ機能の向上に取り組み必要があります。

【現状の課題】

本圏域内の製造業の主要な産業集積地として出雲市(情報通信機械器具)、松江市(生産用機械器具)、安来市(鉄鋼業)、米子市(パルプ・製紙)、境港市(食料品)などがあります。また、これらの産業集積地を東西につなぐ山陰自動車道と中海架橋は連結し、南北に結ぶ交通ネットワークです。その経済的合理性は、費用対効果の指標である費用便益比(B/C)1.8(安来市・米子市「中海架橋整備建設検討業務 説明資料」)から裏付けがされたところ。また中海架橋の実現により圏域の産業集積地と、外国貿易の港湾拠点である境港及び国際便を就航する米子鬼太郎空港へのアクセスが向上し、これらの国際ゲートウェイ機能の利便性が強化されることにより、日本海沿岸諸国との貿易の活性化につながり、長期的な北東アジア地域の経済成長を本圏域の経済発展に取込むことが期待されます。

【期待される効果】

先を見て行動し、変わっていかねければならないと改めて考えさせたい。また、セミナー後の異業種交流会では、初めて顔を合わせる方も多くおられました。積極的な名刺交換、交流していただけました。日常生活の中で接する事のない業種の方や同世代の方々との接する機会とお互いに良い刺激になったと感じました。セミナーと懇親会の双方とも、今後の商売や活動に活かしていただけるきっかけになったのではないかと思います。

地域と企業へ企業経営から地域活性化へ

事業報告

会員資質向上委員会

委員長 木下 淳

5月16日(金)安来節演芸館におきまして、「地域と企業へ企業経営から地域活性化へ」と題し、まちづくり・経営セミナーと異業種交流会を開催いたしました。

安来市出身で経営支援やまちづくりに御尽力されている、株式会社代表取締役 井脇 寛氏を講師としてお招きし、多くの企業の右腕を担ってこられた中で見えてきた「地域の実情」を踏まえ、地域運営と企業経営の共通点や要点などをお話ししていただきました。まちづくりとは、企業とは、そして経営者とは、私たち青年会議所も

「ふれあい12月号」は下記の皆様のご協賛をいただき、発行いたしました。

- (有)カメラのハマダ
- (株)セノオ
- D・アシスト
- (有)中田建設
- (有)喜多川板金
- まるいち木工
- (株)木下工務店
- (有)丸和運輸
- (有)山陰UP販売
- (有)増本土建
- 吉田酒造(株)
- アクアシステム(株)
- (株)遠藤会計事務所
- (有)渡部建設
- (有)中村商店

(順不同)

親子で遊びにおいで!

徳の心探検ツアー!

事業報告

青少年教育向上委員会

委員長 西村陽介

青少年教育向上委員会では、6月22日、広瀬中央交流センターにて委員会事業を行いました。これには親子で参加して頂き、子供には德育ゼミナールを、親には家訓プログラムを受けてもらいました。子供達には、「ありがとう」の言葉から、感謝する心を考え、自分が多くの支えの中で生かされていることに気づき学んでもらいました。親の方々には、自らの価値観を見つめ直し、家族との価値観を共有し、徳溢れる心の醸成を目的とし家訓づくりを行いました。



受講後には親子で、消しゴムのハンコを作り、その後、子供が德育ゼミナールで作った未来への約束に自分で作ったハンコを押し、親が色紙に家訓を書いて、ハンコを押し、最後に親子で家訓を唱和し

ました。事業では子供達には難しい所もあったと思いますが、一生懸命考えたり、楽しそうにしている姿は大変嬉しく思いました。参加して頂いた皆さんには大変良かったという声を多くいただき、この事業を開催して良かったと思います。そしてこれからも青少年育成の為にこのような事業を開催していきたいと思えます。



新入会員紹介



遠藤 章

【勤務先】アクアシステム㈱
【所在地】安来市安来町431

新入会員所感

2014年2月に安来青年会議所に入会させて頂き、1年が経とうとしています。

今日まで、JICを通じた繋がりにより、多くの方々との出会いがあり、仲間が出来ました。私達が住むまちの為に、「何ができるのか」を真剣に考え、行動し、切磋琢磨できるこの場は、自分を磨いてくれる貴重な場となっております。経験が自身を成長させてくれます。40歳という限られた時間の中にはありますが、まちの為に、自身のために全力投球にて多くの事を経験し学び楽しみ会員の皆様と邁進していきたくと思えます。

新入会員紹介



遠藤 宗一郎

【勤務先】遠藤社会保険労務士事務所
【所在地】安来市飯島町494-5

新入会員所感

私は2014年10月より、安来青年会議所の会員に加わることになりました。入会に先立ち、何度か例会に出席しておりましたが、当初は会員の皆様の気迫・熱意に圧倒されるばかりでした。

そんな折、当時の直前理事長がおっしゃっていた言葉で、「ここは塾ではない。受け身ではなく自ら学ぼうとする姿勢を持つこと。」とありました。改めて自らを振り返ってみますと、学ぶこと以前に姿勢の面から正す必要があるのではないかと痛感し入会した次第です。このような未熟者ではありますが、今後はJICでの経験を通し、少しでも安来のまちづくりに貢献できるように会員の皆様と共に歩んでいきたいと思えます。

新入会員紹介



浅野 周作

【勤務先】山陰酸素工業㈱
【所在地】米子市旗ヶ崎2201-1

新入会員所感

2014年6月より安来青年会議所の一員となりまして、はや半年が過ぎました。先輩会員の方々の、溢れる情熱と深い思慮に、日々強い感銘を受けております。

進学や仕事の関係で安来を留守にしていた時期も長かったので、生まれ育った郷土を愛する心は人並み以上に抱いているものと思っております。まだまだ至らぬ点も多々ございますが、郷土の明るい未来のために、力の限り貢献していく所存です。で、今後とも何卒宜しくお願ひ申し上げます。

会員を募集しています

青年会議所には、品格ある青年であれば、人権、国籍、性別、職業、宗教の別なく、自由な個人の意志によって入会できますが、20歳から40歳までという年齢制限を設けています。これは青年会議所が、青年の真摯な情熱を集結し社会に貢献することを目的に組織された青年のための団体だからです。すべての会員は40歳を超えると現役を退いてOBにならなくてはなりません。この年齢制限は青年会議所最大の特性であり、常に組織を若々しく保ち、果敢な行動力の源泉となっています。各地青年会議所の理事長をはじめ、すべての任期は1年に限られています。

青年会議所は、一人ひとりの会員が優れたリーダーシップを持つ社会人となるためのトレーニングを行う団体です。1年ごとにさまざまな役職を経験することで、会員は豊富な実践経験を積むことができ、自己修練の成果を個々の活動にフィードバックさせています。青年会議所におけるさまざまな実践トレーニングを経験した活動分野は広く、OBも含め各界で社会に貢献しています。たとえば政界では120人を超える国会議員をはじめ、知事、市長、地方議員などの人材を輩出、日本のリーダーとして活躍中です。

一般社団法人安来青年会議所は、そのような全国696の青年会議所のうちの1つで、安来市全域を活動エリアとして、地域社会の発展と平和に寄与することを目的として活動している団体です。

一般社団法人安来青年会議所は、一般社団法人米子青年会議所様のスポンサーを以って1966年に創立され、OBの方々の御努力により数々の事業を行うとともに、地域に根ざした活動に軸を置き日々の活動を行っています。そして、安来市にお住まいの皆様や行政、その他各地青年会議所の方々のご理解を頂いた結果、現在に至っています。

(一社) 安来青年会議所への
お問い合わせ・ご質問・ご要望は

●●● (一社) 安来青年会議所事務局 ●●●

〒692-0014 安来市飯島町1240-3

TEL0854-22-3038 FAX0854-22-3293

対応時間：月曜日・水曜日・金曜日(9:00~16:00)

E-mail: yasugi-jc@galaxy.ocn.ne.jp http://yasugi-jc.sakura.ne.jp

広報誌「ふれあい」についてのご感想・ご要望もお持ちしております。